乳幼児教育コース

就学前教育･保育のスペシャリスト養成

多様性と包摂を理念とする現代社会において、保育者には様々な専門的な能力と資質が求められています。私たちは、保育の現場で求められているものを次の「4つの協働する力」にまとめています。

子どもとの協働
理論的知識と実践的技能、乳幼児の心の動きに沿った理解を基にした子どもと保育を創る力

保護者･地域との協働
保護者とのパートナーシップを築き、地域の子育てを支える人間関係構築力と保育カウンセリング・マインド

教職員との協働
教職員が一つのチームとなり、園全体で保育にあたるチーム保育力

小学校との協働
地域の小学校と連携し、発達と学びの連続性を保障した保育を展開する保幼小連携の力

乳幼児教育コースでは、これらの力をもった保育者を養成するために、理論的、実践的に学ぶことのできる様々な授業を用意しています。毎年、卒業生の殆どが保育所、幼稚園、小学校に就職し活躍しています。皆さんも、乳幼児教育コースで保育のスペシャリストを目指しませんか。

「幼児教育方法」の授業風景

附属幼稚園における実習風景（応用実習Ⅰ）

附属幼稚園における実習風景（応用実習Ⅰ）

こんな授業 こんな研究

寺薗 さおり 准教授

私が担当する『子どもの保健』では、保育実践において子どもの心と命を守る指標の習得と対応を目指し、五感を通して観察する方法や体調不良時に必要とされるケアの根拠と方法を学びます。また一人ひとりの子どもが自分のもてる力を十分に発揮して、心身ともに健康に育つ環境を整えるとともに、子どもと家族の発達段階や健康レベルに応じた支援を探求していきます。

研究では、理論と実践の整合性が取れた子育て支援を目指し、乳幼児期の保護者にとって最も身近な専門家、『保育者』による子育て支援モデルの構築を学術的に進めています。近年の子育ち、子育て環境が変化している中で、育児上の困難感を抱く保護者も少なくありません。そこで私は保護者の「自分らしさ」を尊重しつつ、保護者のもつ育児力を引き出す保育者のスキルを研究しています。

子どもの心と体の健康を守りつつ、子どもに必要な保護者の育児への支援について一緒に探求できることを楽しみにしています。

専任教員

寺薗 さおり	小児保健学
小田倉　泉	乳幼児教育学
三橋 さゆり	乳幼児音楽学

主な授業科目

幼児教育方法、乳幼児心理学、保育内容（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）、保育造形表現、保育音楽実践、保育体育実践、乳幼児教育学、子どもの保健、子どもの食と栄養、障害児保育実践、社会的養護論、乳児保育実践、保育実習（保育所･施設）、応用実習（幼稚園）　他

STUDENT'S VOICE

4年生
保坂 莉子

おもちゃを制作したり、みんなで手遊びをしたりと座学だけでなく、保育者として必要な技能を実践的に楽しく学ぶことができます。2年生後期から始まる実習では、実際の現場に行くことで、授業で培った知識や技術を活かす場となり、様々な施設を訪れるため自分がどんな保育者になりたいのか改めて考えるきっかけにもなります。また、少人数だからこそ友達や先生方との距離も近く、先生方の心強いサポートで、それぞれ目標をもち、刺激し合える仲間と一緒に学ぶことができるのも乳幼児教育コースの魅力の一つです。

子ども好きのみなさん、子どもの成長を近くで感じることができる保育者を一緒に目指してみませんか。